

経験に基づく学習モデルを用いた就職難の経験とその後の行動分析

福田皓¹
拓殖大学政経学部

本研究は、日本家計パネル調査（JHPS/KHPS）を用いて、過去の労働市場での厳しい経験が個人の消費や将来への期待に与える影響を検証した。分析の結果、現在の所得や資産などの要因をコントロールした場合でも、男性では、過去の個人およびマクロの失業経験が消費を有意に減少させ、特にマクロの経験の影響が大きいことが明らかになった。このため、就職氷河期世代のような、失業の経験が好転しにくい世代では、マクロの経済状況が劇的に改善しない限り、消費の回復が難しいことを示唆している。一方、女性では、過去のマクロの失業率悪化が将来に対する期待を悲観的に変化させ、耐久消費財を含む消費全体を減少させた。これらは、過去の深刻なマクロ経済環境によって、人々はその後の支出を先送りする傾向があることを示唆するものである。

JEL: D12, D91, E21, E24

キーワード: 経験に基づく学習モデル, 就職難

¹ afukuda@takushoku-u.ac.jp